

自己をみつめ 豊かなかかわりをもち ともに学び合う子どもの育成

～子ども一人一人の確かな学びを育む授業づくり～

研究主題のとらえ方

自己をみつめ 自分の学びを振り返り、学びをつくり、学びを生かす。

豊かなかかわり 課題を解決するために「ひと」「数量や図形」「衣食住」とすすんでかかわる。

ともに学び合う 課題意識をもって学び合い、個の学びを集団の学びに高める。

確かな学びとは

- ◇知識や技能を身につけ活用する力
- ◇学ぶことへのやる気や意欲
- ◇自分で考える力（思考力）
- ◇自分を表現する力（表現力）
- ◇友だちと学び合う力（創造的対話力）

島根県学力調査の結果から

- 「活用力」や「表現力」、学習・生活習慣に課題

研究目標

算数科と家庭科において、かかわりたくなる場を設定し、思考力・表現力・創造的対話力を育てるための授業改善を行うことで、子ども一人一人の確かな学びが構築され、伝え合い学び合う子どもが形成されることを実践を通して明らかにする。

実態把握・評価分析・考察改善

- ・全国学力・学習状況調査
- ・島根県学力調査
- ・本校意識調査

授業改善



わかる・できる・楽しい授業

研究の視点

- 学習過程の工夫
- 課題提示の工夫
- ワークシート、ノートの活用の工夫
- 個別の支援
- 伝え合いの場の工夫
- 評価の工夫

授業づくりの視点

《算数科》子ども一人一人が自ら考え、学ぶ楽しさ（考える楽しさ・わかる楽しさ・できる楽しさ）と、学んだことが、学習や生活の中で役立つと感じることができる授業づくりをめざして
 《家庭科》子ども一人一人が生活の中で自ら課題を見つけ、課題を解決するために工夫し、身近な生活に活用しようという意欲をもつことができる授業づくりをめざして

●学習過程

①つかむ

◇問題場面や課題提示の仕方を工夫し、子ども一人一人が問題の意味を理解し、意欲的に取り組めるようにする。

②考える

◇算数的活動や体験的活動から、自分の考えをもつことができるようにする。

③高める

◇話し合う内容と目的を明確にし、考えの多様性に気づいたり、自分の考えを高めたりすることができるようにする。

④振り返る

◇振り返りの仕方を工夫し、繰り返し学習や継続的な学習の習慣化を図ったり、身近な生活に生かすことができるようにする。

●「かかわりたくなる場」の工夫

※課題とのかかわり

- ・課題設定や提示の仕方の工夫
- ・発問の工夫
- ・ストーリー性のある学習過程
- ・算数的活動や体験的活動の工夫
- ・個別の支援
- ・ワークシートやノート活用の工夫
- ※「ひと」とのかかわり
- ・ペア学習、グループ学習、一斉学習等の学習形態の工夫
- ・意図的指名や切り返し発問の工夫

学びの基礎づくり

食育の推進

- ・給食指導の徹底
- ・「食の学習ノート」の活用
- ・児童会活動の工夫
- ・給食センター等関係諸機関との連携

学習・生活習慣の定着

- ・「生活リズムづくりチャレンジカード」の活用（各学期1回）
- ・「家庭学習のしおり」の作成、活用
- ・朝自習の充実（スキルアップタイムの実施）
- ・PTAとの連携「元気アップスクール」の実施

読書習慣の定着

- ・朝読書の実施
- ・読書週間の工夫
- ・児童会活動の工夫
- ・保護者、地域ボランティアとの連携